

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学 保健医療学部 看護学科

佐々木千佳

2024年 9月 29日 作成

1. 教育の責任

本学の建学の理念及び使命は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という建学の理念をもとに、継続的学習力、想像力、そして課題解決能力を育む「幅広い教養教育」と、エビデンスに基づいた専門知識・技術の修得を基盤とした、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成を基本的使命としている。豊かな人間性と高度な専門性を併せ備えた人材の養成、臨床現場でチーム医療できる人材の養成、地域に必要な医療人の養成を行い、地域社会に貢献できる職業人を輩出することである。私は、看護学科の教員の責務として、幅広い視野を持ち、エビデンスの基づいた専門知識と技術を修得したうえで、それらの技術と知識を活用できる応用力を持ち、責任感と使命感を持って自律的に社会で活躍できる看護師を育成することが責務であると考えている。

私は基盤共通看護領域に所属し、看護教育の基礎となる看護過程の教育、看護技術の教育、高齢者を対象とした看護として以下の科目を担当している。

科目名	学年	必修・選択	単位
ヘルスアセスメント学Ⅰ	1年 後期	必修	1
ナーシングスキル学Ⅰ	1年 後期	必修	3
ナーシングスキル学Ⅱ	2年 通年	必修	3
ナーシングプロセスⅡ	3年 前期	必修	2
生涯発達看護論	1年 後期	必修	1
リハビリテーション看護論	3年 前期	必修	1
老年看護学	2年 前期	必修	1
老年看護方法論	2年 後期	必修	1
看護管理学	3年 前期	必修	2
看護基盤実習Ⅰ	1年 通年	必修	2
看護基盤実習Ⅱ	2年 後期	必修	4
ヘルスプロモーション実習	3年 後期	必修	4

その他に取り組んでいる教育活動は、1) 2 学年のチューター 2) 学生支援委員会委員 3) 入試広報委員会 4) 高校生を対象にした講演や模擬授業の実施である。これらの活動を通し教育活動を行っている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

1. 自ら学び、考えて実践できる看護職者の育成

看護学科の教育目的は、幅広い視野で人間を理解できる教養を備え、専門職業人としての倫理観を育み、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につけ、地

域・社会 に貢献できる能力をもつ人材を養成することである。また、ディプロマ・ポリシーは、①人間の命と個を尊重できる力 ②エビデンスに基づく 実践力 ③援助的コミュニケーション ④チームで連携し協働する力 ⑤安全を保障する力 ⑥看護の発展に対応する力である。これらの内容は、支援の対象全人的に理解し、アセスメント・評価し、その対象者に対し適切な支援ができる能力を養うことと考える。そのため、看護学の基礎的知識と科学的根拠に基づく基礎技術を身につけること、看護に対する誠実な態度と他職種を含めた対象者への支援者の協調性と考える。

2. 論理的な思考と実践を繋ぐ教育

臨床での実践経験や看護の実践家との交流の中で認知症高齢者の看護が難しいと感じている看護師が多いことがわかった。学生には、実習中の対象とのかかわりを通して、座学での学びを論理的に思考し実践に結び付けてほしいと考える。認知症高齢者とコミュニケーションを通し、論理的に現象を理解し実践につなげる基盤を構築してほしいと考える。また、学生が卒業までに高齢者と接することに苦手意識を持つことがないことを望んでいる。

2) 理念をもつに至った背景

上記の理念をもつに至った背景は、以下の通りである。一つは、医療機関における臨床実務経験とそこで得た学びである。臨床では糖尿病療養指導士として所属の医療機関だけでなく、高齢者になっても在宅で生活できるよう地域のクリニックで働く看護師を含めた連携システムを構築してきた。その中で高齢者が在宅で生活し続けるためにどうしていくかを含めて支援の方法を考えてきた。高齢者を対象とした看護教育に携わる者として、臨床実務経験のみならず、このような地域を含めた支援について考え続けてきた経験は、大きく影響していると考えている。また、私が患者の立場を経験したことにより得た学びがある。患者として看護師を客観的に観察する機会となった。看護師が発する言葉で患者はさまざまな思いを巡らすことや想像以上に看護師を見ているということも知ることができた。看護師としての専門性は重要であるが人としての振舞い方にも注意を払う必要がある。看護教育に携わる者が患者や家族の立場を経験することは、教育の現場で生かしていくことができると考える。また、認知症高齢者の看護に対しては、認知症認定看護師や専門看護師から看護実践の実際を聴くにつれ、学生が実習を通して認知症高齢者への支援方法を学ぶことが、高齢化社会を支える看護師として必要な教育と考える。

3. 教育の方法・戦略

前述した理念を実現するための教育方法は以下のとおりである。

- 1) 高齢者とその家族を全人的に理解する。
- 2) 自己の生活体験の振り返りと学修結びつける。
- 3) 高齢者の生活を想像することができるような体験学習を経験する。

1)について

分かりやすい説明と学習に効果的なビデオ視聴教材を活用する。統計学・疫学的に高齢者像をとらえられるようにしている。私自身も日ごろから統計的資料には注意を払い、最新のデータで教授できるようにしている。

2) 3)について

看護師が行う業務の生活支援について、自己の生活体験を振り返ることでより良い方法を考えられるように、高齢者が生きてきた年月の中での生活の変化を含めて教授できるようにしている。核家族が増えている現在、青年期を過ごしている学生が高齢者像を想像するのは難しいと考える。そのため高齢者体験や臨地実習を通して理解して欲しいと願い、そのような学習が深まるような体験や実習施設を準備している。

学生が躓きやすい様々な理論について講義する場合は、自作の事例を用いながら理論の意味や解釈の仕方を分かりやすく、想像できるように説明し、理解を促すように心がけている。また、今までの臨床経験や教育経験の中で得た高齢者自身のや思いや看護の実際などを教材として活用している。

4. 学習成果

講義毎に学生にはフィードバックペーパーに記載してもらっている。その内容の一部であるが、理解が深まったや、講義の内容に興味を示した、というコメントを得ている。その内容は、講義の中で理解して欲しいと考えていた内容であるため、講義内容が学生に理解されたと考えている。また、講義中に既習科目の知識の確認も行っているが、そのことに対しても、復習になったや、十分に理解していないため復習しようと思った、などというコメントを得ている。学生が意欲的に学習に取り組むための一助になっていると考える。

5. 改善のための努力

担当する科目に関しては、科目責任者と密に打ち合わせを行い、以下のように対応している。

1) 学生の遅刻・欠席に関して

遅刻の取り扱いは学生便覧にある学則に則り且つ公共交通機関の最大遅延時間に授業開始時間を照らし合わせた上で出席と遅刻の取り扱いを決め、学生が十分な学習時間を確保できるように呼び掛けている。やむを得ず欠席した学生に関しては、必要に応じ講義中のポイントを説明している。

2) 学習方法の確認と指導

シラバスは、指定教科書に沿った内容にし、学生が教科書を予習・復習にフル活用出来るようにしている。講義中の資料は出典を明確にし、復習しやすいようにしている。また、図書館に所有されている資料をできるだけ使用するようにしている。小テストを適宜行い講義の内容を学生が確認できるようにしている。学習方法については説明しており、引き続き行う。

6. 今後の目標

1) 短期目標(達成時期:2025 年 3 月)

講義・演習に学生自ら思考できる時間を確保する。その 教育効果について学生と教員による評価を行う。

2) 長期目標

(1)教育の成果をまとめ、学会に発表し、論文投稿する。学会等では教育研究者との交流を通して効果的な教育実践のあり方について知見を得る。

(2)効果的な教育実践報告に関する文献を熟読し、学生への教育の参考にする。

【添付資料】

・本学シラバス